



眞澄さん宅の庭先集まってお茶を楽しむ皆さん

14万年前までさかのぼります。現在の赤井から木崎へとつらなる丘陵は、当時の阿蘇火山の大噴火の延長によって生まれた「赤井火山」です。眞澄さんは志を同じくする地域の人たちと共に、赤井地区に息づく歴史や風土を広く伝えたいと「赤井火山と赤井城址を守る会」を立ち上げ、歴史文化の継承活動に力を注いでいます。会のメンバーの内、4人のグループは、みそや漬物などの加工品づくりにも熱心に取り組んでいます。チームリーダーは、90歳とは思えないほど元気な城本治代さん。「20歳で嫁いできて、なーんも知らんだったばってん、近所の先輩たちからみそ作りを教えてもろてね。だけん、その味を次の世代にも残したかったです」



赤井城跡の一角にたたずむ「日枝神社」

赤井城の本丸跡と伝えられる場所に鎮座する「日枝神社」は、赤井城跡と併せて町指定の重要文化財。木山神宮の末社で集落の氏神を祭っています。しかし、熊本地震により大きな被害を受けました。区長の呼びかけの下、住民の寄付と県・町の補助を得て再建が進められ、今年3月に竣工式を迎えました。「幼いころは、拝殿に住むフクロウを探しに来るのが楽しみでした」と笠井浩之さん。神社では月に1度、集落で決められた、飯あげ当番、サ

赤井地区の氏神様 日枝神社

春の花々が咲き誇る眞澄さん宅の庭先で皆さんは、漬物とおまんじゅうを囲みながら、おしゃべりに花を咲かせていました。

熊本地震から10年。城本ぬい子さんにとってのその歳月は、深い悲しみを胸に抱えながら歩みを進めてき

深い悲しみを胸に 前へと歩いた10年

笠井さんにお話をうかがったその日、熊本の空にはブルーインパルスの展示飛行が行われました。日枝神社の高台には、集落の人たちが集まり、6機の機体が町の上空を通過すると大きな歓声が上がりました。



日枝神社での思い出を話してくれた笠井さん



ブルーインパルスの展示飛行を見に来た吉村昭子さんと孫の山口翔心くん



上/笑顔を絶やさなかったという亡き夫・千秋さん。左/夫との思い出を振り返りながら花を育てているぬい子さん

た時間でした。4月16日の本震で、夫の千秋さんは、自宅で被災し、帰らぬ人となりました。「とても優しい人でした。畑仕事も外出もいつも一緒に、突然、さよならも言わないで逝ってしまった。今も悲しみは癒えませんが、心の中でいつも『お父さんのおかげで穏やかに暮らせとるよ』と語りかけながら手を合わせています」とぬいさんは静かに話します。自宅の庭にはいろんな花々が育っています。「夫と一緒によく花の苗を買って行きました。そんな思い出をかみしめています」。愛らしい花々に囲まれた千秋さんの遺影の優しい笑顔は、いつまでも変わらぬままです。



①赤井城跡から眺めた赤井集落の風景。②赤井・木崎地区にはいくつもの水路が巡っています。③赤井川のそばにこんもりとある丘。かつて、赤井城があった場所です

現在放映中のNHK大河ドラマ「豊臣兄弟」の主人公たちが活躍したのも、まさにこの時代。また地名には「本丸」、「北圍」、「南圍」、「浮草ぼり」、「繩手」などが今も残り、城郭の記憶を静かに伝えています。

眞澄さんは「私の実家の近くに遺跡があり、幼い頃から自然と興味を抱きました。その影響でしょうか、自分の子どもたちにも古里の歴史を伝えたいという思いが深まっていったんです」と振り返ります。さて、赤井地区の歴史をはるか



季節の野菜を使って数種類の漬物を作っています



手作りみそや漬物などのレシピを伝えている治代さん



「赤井火山と赤井城址を守る会」の皆さん

赤井城跡の記憶を残す地名

キズナパーク(町総合運動公園)前を走る国道443号から、東に1本分かれる道を南下し進むと、赤井川の流れに行き当たります。

橋のたもとから左手に目をやると、こんもりとした丘が広がっています。室町時代(戦国時代)、ここに赤井城がそびえていたと伝えられています。赤井城(天文16(1547)年ごろに、木山城(現在の寺迫にある木山城跡)の支城として築城されました。天正13(1585)年に薩摩の島津氏の襲撃により落城したとされ、わずか38年ほどの間だけ存在した城でした。

地域の人たちで 歴史文化を継承

湧水地に恵まれた赤井地区と木崎地区には、古くから人々の暮らしを支えてきた水路が巡っています。耳を澄ませば水の音。さわやかな初夏の風に触れながら、ぶらり散歩。今回も、温かい出会いが待っていました。

ちょっとそこまで！
わがまち散歩
Wagamachi Sankou
vol.59
赤井・木崎編
あかい・きさき・まき